

誰も教えてくれなかった儲けの秘密

億万長者への道は

経済学に

書いてある

The Road to Riches is Founded in Economics

経済評論家

加谷珪一

CROSSMEDIA PUBLISHING

はじめに

偉大な経済学者ケインズは 株式投資で数十億円を儲けた

「量的緩和策の仕組みや財政出動の効果について、しっかり理解できていれば、あなたは1億円を手にしていたはず」

こう聞くと、皆さんはどのように感じるでしょうか。

極端な話と思った人もいるかもしれませんが、実はそうでもないのです。

これらの理屈が分かっているならば、アベノミクス相場やトランプ相場において、かなりの確率で大儲けができたはずですし、実際、経済学の知識があった人は、いち早く行動に移して大きな利益を得ています。

本書の主題は「経済学」の知識を使って「利益を得る」ことです。

ほとんどの人にとって、「経済学」と「お金儲け」は、あまり結びついていないと思います。株式投資を積極的に行っている個人投資家に話を聞けば、「経済学なんか勉強しても投資には役に立たないよ」と一刀両断にされるのがオチでしょう。一方で、経済学に詳しい人は、たいていの場合、投資とはまったく無縁の世界に生きています。

つまり経済学を勉強する人と、投資をする人は人種が違うということなのですが、はたしてこれは合理的なことなのでしょうか。筆者はそうは思いません。

筆者の仕事は経済評論家ですので、経済やビジネスに関するコラムを執筆したり、メディアにコメントを出すのが仕事です。

これに加えて筆者には、個人投資家というもうひとつの肩書きがあります。

筆者は経済評論の傍ら、個人投資家として日常的に億単位の株式・債券投資を行っています。当然のことながら、市場の見立ては、経済評論家として経済を分析した結果をベースにしています。

筆者の中では、マクロ経済を分析すること、これから上がりそうな銘柄を探すという行為は完全に一致しています。もちろん経済が分かったからといって、どの銘柄が上がる

のか正確に予測することはできません。しかし投資というのは、タイミングが重要であり、市場全体の動きを知ることができれば、勝率はグンと上がるものです。この部分においてマクロ経済の知識はとても役に立ちます。

経済学と投資が結びつかないのは、経済学の世界があまりにも無機質であることと深く関係しているでしょう。経済学はお金に関する学問ですが、用いる用語は抽象的で、なかなか現実の経済活動と結び付けて考えることができません。

これは非常にもつたないことだと筆者は考えます。

経済学はお金に関する学問なので、その内容が投資の役に立たないわけがありません。せっかく経済学を学んでも、ただそれを暗記するだけにとどまっていたら、まさに宝の持ち腐れといってよいでしょう。

もっとも偉大な経済学者であるジョン・メイナード・ケインズ氏は個人投資家としても知られており、学術研究の傍ら積極的に株式投資を行い、今の貨幣価値で数十億円（計算方法によって幅が出る）もの資産を作りました。かのケインズ氏と同じようにはいきませんが、私たちが努力すれば、経済学の知識を現実の投資やビジネスにもっと生かせるはず

です。

本書は全部で5つの章で構成されています。

序章では、株価が基本的に名目GDP（国内総生産）に沿って動いていることや、為替が購買力平価に連動していることなど、経済学と市場の動きの関係性について解説しました。経済学の基礎的な知識があれば、アベノミクス相場やトランプ相場で利益を上げることができた理由についても解説しています。

第1章から第4章までは、それぞれ経済学の基本についてまとめました。各項目の前半は経済学の基礎知識、後半は投資への応用という構成になっています。

第1章では、すべての基礎となるGDP（国内総生産）について解説しています。貯蓄と投資が一致するという概念や、GDPの三面等価についても言及しました。

第2章では、マクロ経済の中で大きな位置を占めているIS-LM分析を取り上げました。この項目が理解できれば、経済政策がもたらす効果について、かなりの部分まで筋道立てて予想できるはずです。

第3章では物価の動きを取り上げます。現実には物価動向が経済に大きな影響を与えま

す。長期と短期での影響の違いについても解説しました。

第4章は主に国際収支についてです。経常赤字や経常黒字はよくニュースで取り上げられますが、必ずしも赤字が悪いこととは限りません。トランプ政権がしかける貿易戦争についても冷静に対処できると思います。

投資の世界では負けないことがとても大事です。

長期的に見た場合、経済や株価は基本的に成長していくものであり、大きな失敗をしなれば、かなりの確率で資産を増やすことができます。

経済学の基礎知識は負けないための重要な手段であり、これが最終的に大きな利益をもたらすこととなります。

億万長者への道は**経済学**に書いてある

はじめに

2

偉大な経済学者ケインズは
株式投資で数十億円を儲けた

序章 — 経済学は儲けの学問だ！

13

経済学を学べば株価を予測できる

「これから株価が上がります」というサイン

日本経済は10カ月で上下変動する

トランプ相場は100%勝てるゲームだった

為替トレーダー必見！ 為替は物価で決まる

人手不足になると経済はどうなる？

1章 経済を知るにはまずGDPから

- 44 **経済学のキホン1**
「消費」と「投資」の違いに注目
- 48 **儲かるポイント1**
「設備」への投資が増えると株価は上昇
●儲かるまとめ
- 51 **経済学のキホン2**
「貯蓄」と「投資」は一致する
- 56 **儲かるポイント2**
米国と日本における貯蓄率と株価の関係
●儲かるまとめ
- 59 **経済学のキホン3**
株価を動かすGDPの3要素とは？
- 61 **儲かるポイント3**
賢い投資家は「機械受注統計」に注目する
●儲かるまとめ
- 68
- 69 **経済学のキホン4**
家計から出たお金は形を変えて戻ってくる
- 73 **儲かるポイント4**
分配次第で株価が上がる業種は変わる
●儲かるまとめ
- 76
- 78 **経済学のキホン5**
純輸出の分だけGDPはプラスになる
- 82 **儲かるポイント5**
トヨタとホンダでは「儲け方」が違う
●儲かるまとめ
- 85
- 87 **経済学のキホン6**
財政赤字の場合、貯蓄は借金返済に回る
- 91 **儲かるポイント6**
ISバランスの変化が相場の転換点となる
●儲かるまとめ
- 95

2章 「金利」が分かれば経済が読める

97

経済学のキホン7

景気が拡大すると貨幣の需要が増える

儲かるポイント7

機関投資家が好む債券投資に注目

●儲かるまとめ

経済学のキホン8

金利が低下するとGDPは増加する

儲かるポイント8

実質金利と名目金利。重要なのは…?

●儲かるまとめ

経済学のキホン9

貨幣市場では金利上昇でGDPが増加

儲かるポイント9

流動性の罫は投資の大チャンスだった

●儲かるまとめ

経済学のキホン10

財政出動のメリットと思わぬデメリット

儲かるポイント10

いよいよ金利が上昇する局面が訪れる?

●儲かるまとめ

経済学のキホン11

財政出動と金融政策、効果が大きいのは?

儲かるポイント11

電子マネーの普及は景気にプラスか?

●儲かるまとめ

経済学のキホン12

貿易があると財政出動の効果は弱まる

儲かるポイント12

巨大な島国である米国への正しい投資法

●儲かるまとめ

124 120 116 114 111 107 106 102 98

150 147 143 141 138 134 133 129 125

3章 「物価」で決まる儲けのチャンス

経済学のキホン13

物価が下がるとGDPは増加する

儲かるポイント13

大幅値下げでスーパーは絶好調！一方…

●儲かるまとめ

経済学のキホン14

物価が上がると雇用が増えるカラクリ

儲かるポイント14

インフレに強い銘柄で儲ける方法

●儲かるまとめ

経済学のキホン15

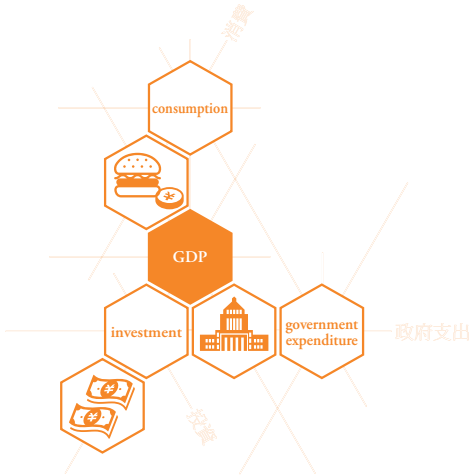
物価は貨幣の量で決まる

儲かるポイント15

量的緩和に真っ先に為替が反応した

●儲かるまとめ

178 174 170 169 165 161 159 156 152



4章 海外投資で稼ぐための 貿易についての基礎知識

経済学のキホン16

比較優位——輸入したほうが儲かるもの

儲かるポイント16

TPPで日経平均株価は2割上昇

●儲かるまとめ

経済学のキホン17

「経常収支」と「金融収支」は一致する

儲かるポイント17

トランプの敵対的な通商政策の影響

●儲かるまとめ

経済学のキホン18

知っているようで知らない「二物一価の原則」

儲かるポイント18

高金利の外債投資はオススメか？

●儲かるまとめ

経済学のキホン19

経済成長はカネ、ヒト、テクノロジー

儲かるポイント19

AI社会の到来で株価は上がるか？

●儲かるまとめ

おわりに

経済学の知識があれば

未来を予測できる

216

179

198 196 193 189 188 184 180

214 211 207 205 202